

## 【タイトル】論争的問題の哲学対話トリセツを作ろう！

【発表者】山方 元、哲学カフェ in まるくに（共催）

【プロフィール】哲学カフェ愛知（豊橋、名古屋、一宮など）および、philosophy 愛知主宰哲学カフェの情報収集と発信、哲学カフェの主催者、ファシリテーター、参加者をサポート。

【内容】ワークショップ

2022年12月長野市の青木島遊園地公園の「一人の意見で廃止」という報道で耳目を集めてネットが炎上して、長野市が記者会見をしたり、地元で住民との対話と公園存続を求める署名が提出されるなど、対話の場も設けられましたが、市の方針は変わらず2023年4月に公園は廃止されました。

長野市の権堂商店街で哲学カフェを開かれてきたグループは22年12月25日に「青木島遊園地」について考える哲学カフェを開催され。その後も青木島遊園地について哲学対話を重ね。廃止問題をテーマに対話した内容を冊子にまとめ、遊園地の問題を担当する公園緑地課、こども政策課などに冊子を提供した。また長野市などの平安堂の店舗で販売もされた。

身近な日常のモヤモヤを問いにして、話し合うのが、哲学カフェの真髄。青木島遊園地問題もまた、モヤモヤを感じた市民のニーズにも応えたテーマにした哲学カフェが開かれました。やりたいテーマではあったものの、始めて見ると、「公共問題」「時事問題」「論争的問題」を対話することの意義も感じられる一方で、対話の難しさや課題に直面したことと思います。青木島遊園地問題じたいは、遊園地は更地になりはしたものの、依然問い続け考え続け変化が求められる問題であり続けるでしょう。



長野で哲学プラクティス連絡会が開かれるならば、この経験を継承し、活かして、今後も起きるであろう、「論争的テーマ」を「開かれた哲学カフェ」で行うことの意義や課題を踏まえて、何を大切にして、どのように進めるのか、哲学カフェとは何かを考えながら、トリセツのようなものを作成したいと考えました。

哲学カフェにも、その目的によって、取り上げるテーマ、問い、進め方が異なります。

地域の論争的な「公共問題」に対して、哲学カフェをしたいという思いが起きた場合、どのようなことに留意し、行動し、進めていかななくてはいけないのか？また、目的に照らして、どのようにしたら有意義な会となるのか？課題を列挙することも大事ですが、論点を絞って、哲学カフェの可能性と限界を参加者で考えます。

